

復刻版

婦人のこえ

全8巻

1953年10月
～1961年9月

平和と民主主義、労働問題、女性の権利拡大、
教育、貧困問題……
「本当の民主主義」を希求する
女たちの熱い議論を掲載



戦後日本の激動期を駆け抜けた女たちの記録、全九四冊を完全復刻！
労働省婦人少年局長を辞した山川菊栄が、
志を共にする女性たちと発刊した『婦人のこえ』。

揃定価●160,000円＋税 (税込176,000円)
体裁●A5判・上製・総3,254ページ
配本●全2回配本
解説●鈴木裕子
推薦●水溜真由美・林葉子

六花出版

一九五二年、サンフランシスコ講和条約発効で、沖繩を残す形で占領期が終了した日本は、東西冷戦構造が明確になる中で急激に米国への軍事的・経済的依存を高めつつあった。

日本国憲法が誕生し、ようやく基本的人権や労働基本権が保障され、男女平等教育の民主化など一連の戦後改革がなされたはずが、その実、女性や子ども、そして庶民の生活は苦しくなるばかり。誓ったはずの反戦平和も再軍備の強行でなし崩しになっていく状況の中、戦前から女性の権利や労働問題に取り組んでいた山川菊栄が、左派社会党や労働組合の女性たちと連携して立ち上げたのが、この『婦人のこえ』である。

一九五三年から一九六一年までの八年間、月刊で全九四冊刊行され、政治、法曹、労働運動、文学、美術、映画、音楽などさまざまな分野で活躍する女性たちが社友、執筆者として名を連ねた。東アジアの冷戦、日韓台湾における米軍の駐屯による軍事緊張下にあつて、平和を追求し、女性や子どもたち、労働者の権利、生活を守れと力強く声を挙げ続けた女たちの存在があつた。その熱い記録をここに復刻する。

「婦人と低賃金」「労働組合と婦人」「日米不平等条約と日本」「売買春問題」「新興宗教と政治」と、特集で提起されるさまざまな問題は、戦後八〇年を迎えようとする今もなお解決されていない。人々の民主化への覚醒、主体の確立を訴え、声を挙げ続けた女たちの言葉は、今なお同じ理不尽に直面する私たちに強く響き、大きなエンパワメントになるに違いない。

●「婦人のこえ」主要執筆者（五〇音順）

淡谷のり子、石垣綾子、円地文子、神近市子、川上喜久子、河崎なつ、久米愛、榊原千代、三瓶孝子、菅谷直子、杉村春子、田中寿美子、平林たい子、藤原道子、山川菊栄ほか

「失業者は国に溢れ、物価は上り、食えない者がこの上食を節して軍事費につきこむのでは、戦争前の日本と同じことではありませんか」（『婦人のこえ』創刊号／山川菊栄）



時のうぶが

山川 菊 栄

婦人参政権と国際平和

第十九世紀の終りから廿世紀の初めにかけて欧米で婦人参政権獲得運動がなされたのは、男子に比べて女子は教育を受け、仕事をし、金を稼いだり、血を以て國を守る義務のある者がある女子にはそれができない、というのでした。これに對して婦人側は、婦人は人を殺す代りに生むことによつて國に寄與して、その上婦人は平和を愛する者だから、婦人が参政権を得れば、世界から戦争なくすることができると思つたのでした。

いよいよ再軍備

問題のMSAの正確がハッキリしてきました。久しい間その内容を知らぬ存ぜぬの一種ばかりで國民を欺き、アメリカと交渉に入つた後、防衛計画の提示が必要なら、保安隊を増員せよ」と云ひかけていた政府が、ケロリと突然保安隊の増員をふくむ大きな防衛計画を發表したのです。行方不明に大それた殺人強盗などをやりながら、良心の咎めどころか石ころ一つ置いたにも感じないのがアレゲールの犯罪青年の理ですが、ミカドの代りにダレスを新に加えることとなる。何のことはない、ミカドの代りにダレス官としてより陸軍の復活はあつたか、アメリカの國務長官とより世界の帝王といつていい氣味のもの、アメリカの國務長官の方で、憲法改正にすぐのりだすにちがひない勢です。

関連年表

Table with 2 columns: Year and Event. Includes dates from 1916 to 1978 and events like 'Suffrage for women', 'MSA release', 'Women's Party', etc.



「働く婦人の歴史」(15)

最初に賃労働者になつた婦人たち

以上が明治になってから、賃労働者として働くようになった歴史的な婦人達のことであるが、これ以外に、この時代の婦人達の中には、この頃として女紅、この時代の婦人達の中には、この頃として女紅、この時代の婦人達の中には、この頃として女紅...

以上が明治になってから、賃労働者として働くようになった歴史的な婦人達のことであるが、これ以外に、この時代の婦人達の中には、この頃として女紅、この時代の婦人達の中には、この頃として女紅...

女性と労働者の解放を目指した 山川菊栄と女性たちのネットワーク

水溜真由美 ●北海道大学

山川菊栄といえば、舌鋒鋭い孤高の理論家のイメージが強い。廃娼論争、母性保護論争の際は、フェミニストの論敵を容赦なく論破した。一方で、菊栄のまわりには多くの女性運動家が集った。菊栄の社会主義女性運動に対する真摯な姿勢と理論家としての傑出した能力ゆえであろう。戦前の日本では女性が活躍する機会が著しく限られていたが、菊栄は女性たちが能力を発揮できるよう尽力した。戦後の労働省婦人少年局長の時代には、地方職員室の職員に女性を採用すべく全国各地を奔走した。

『婦人のこえ』は、菊栄が婦人少年局長を退任させられた後の一九五三年から六一年まで発行したミニコミ誌である。左派社会党の女性雑誌の位置づけを持つとはいえず、確たる経済的基盤のない中で八年間も続いたのは、女性たちの声を社会に届けようとする菊栄の熱意と多くの女性たちの支えがあればこそ、と思われる。多数の硬派な記事を含みながらも、手作りの温かみがある『婦人のこえ』は、菊栄を囲む女性たちのネットワークの証である。

山川菊栄の長い活動歴のうち、婦人少年局長退任後の活動は、『おんな二代の記』『覚書 幕末の水戸藩』などの著作をのぞけば、あまり知られていない。『婦人のこえ』復刻版は、その欠落を埋める貴重な資料である。占領期が終わり、高度経済成長にさしかかった時代に、菊栄が女性と労働者の解放を実現するために、どのような考えを持ち、どのような発言を行っていたのか、たどり直す意味は大きい。(みづたまり・まゆみ)

軍事化に抗する

フェミニニズムの原点

林葉子 ●名古屋大学

女性たちは、戦前の日本社会において政治参加の権利を奪われていた。政治を学んだり論じたりする機会がほとんど与えられないなかで、軍事主義を貫く政府の政策によってもっとも傷つけられたのも、女性を含む社会的弱者だった。敗戦を経て、ようやく女性たちは参政権を得たものの、あまりにも長く政治から遠ざけられていたために、女性たちが政治を論じられるようになるためには、その力を養うための場が切実に必要とされていたのである。

そんななか、『婦人のこえ』は、女性たちが自ら編集し、政治や経済、軍事、外交、文化や暮らしについての女性たちの「こえ」を集めて刊行された。女性評論家や女性議員等の著名人だけでなく、「働く者」や主婦たちも、その原稿を執筆した。それらの記事の中には時代を色濃く反映したものが多く、「戦争未亡人」「引揚」「特飲街」、沖縄を含む基地周辺の女性たちの性被害や人身売買問題を取り上げた記事等は、とくに注目に値する。

日本で再軍備が進められた一九五三年に創刊された本誌は、その世相を批判し、過去の戦争がどのように日々の暮らしを圧迫して社会的弱者の人権を奪ったのかを事例として示した。それは、フェミニズムの立場からの軍事化への抵抗であり、政論の自由を得た女性たちの、言論による平和運動である。未だ戦禍の止まない世界に生きる私たちが、何度でも立ちかえるべき原点の一つである。(はやし・ようこ)

創刊のことば

悪夢のような戦争が終つて八年、新しい憲法ができ、労働基準法、改正民法、教育基本法、児童福祉法その他数えきれないほどの法律ができましたがそれが守られているでしょうか。私たちの生活は安定したでしょうか。日本はほんとうに平和な文化国家への道をまっすぐに歩いているでしょうか。せつかく参政権が興えられ、婦人が有権者の過半数を占めているのに選挙の度に総得票数に於ても議員数に於ても保守系に大多数を占められているではありませんか。相変わらず働く者貧しい者を犠牲にして大資本と官僚の抱合政治が榮え、再軍備が横行されようとしているではありませんか。私たちは米ソいざれへの一邊倒をも排し、自主中立の立場から平和を確立し、婦人、児童、働く人の権利を守る、ほんとに民主的な社会、社会主義の社会を作るために働きたいのです。「婦人のこえ」はそのための手段です。皆さん手をとって闘いましょう。進みましょう。

婦人のこえ



昭和二十八年十月號

創刊のことば 山川菊栄(一)

時のうごき 河崎なつ(二)

子供は放り出されている 藤原道子(三)

人身売買の問題 藤原道子(四)

軍事豫算を下廻る教育費 神原千代(五)

恩給と社会保障 高橋芳子(六)

外房の女たち 阿部艶子(七)

政治家への不満 杉村春子(八)

随烟の雑草 新居好子(九)

新居成る 淡谷のり子(一〇)

婦人界のうごき 菅谷直子(一一)

MSA援助について 三瓶孝子(一二)

海外アンネはここにも 山川菊栄(一三)

(海外)月(益歌) 長澤美津(一四)

能率給への疑問 岩瀬ふみ子(一五)

短歌・俳句 小川マリ

表紙・扉

座談会

女ひとりの生活を語る

編集事務局長 井上 ヤス (四十四)

料理店従業員 西田 壽美子 (二十六)

英語教師 加藤 禮子 (二十六)

編集者 労働者の調査によりまして、二三年前の資料ですが、日本の労働総数約三九百万に對し女子は千六百餘り、大體四二%、そのうち家庭従業者が大部分を占め、外に出て働いている女子雇用者は四分の一、およそ四百萬となつています。そのうち既婚者がどのくらいか調べていませんが、大體既婚者が多いだろうと思つて、そしてこれら働く中の中にはいろいろな境遇の方があり、職場はもとより労働条件も千差万別です。ところが、總じて今の日本では女ひとりの生活は大體ですし、またどんな職場でも女がいつでも同身で働いておられます、何か特殊な眼で見られる事でもなく、今日はその生活に對しての立場から發言して頂きたいと思つて、出席頂きましたお三人の職場はまるで違つていますが、それだけかえてさまざまの御考へや意見があるのではないと思つています。

井上 ヤス(以下同) 井上さんは前回の全選の婦人部長で、昨年はイタリヤ總同盟の婦人部長として、東京にいらして、婦人の意見の場について日本の實情について、意見は豊富にお持ちだろうと思つています。

西田 壽美子(以下同) 三年前の資料ですが、日本の労働総数約三九百万に對し女子は千六百餘り、大體四二%、そのうち家庭従業者が大部分を占め、外に出て働いている女子雇用者は四分の一、およそ四百萬となつています。そのうち既婚者がどのくらいか調べていませんが、大體既婚者が多いだろうと思つて、そしてこれら働く中の中にはいろいろな境遇の方があり、職場はもとより労働条件も千差万別です。ところが、總じて今の日本では女ひとりの生活は大體ですし、またどんな職場でも女がいつでも同身で働いておられます、何か特殊な眼で見られる事でもなく、今日はその生活に對しての立場から發言して頂きたいと思つて、出席頂きましたお三人の職場はまるで違つていますが、それだけかえてさまざまの御考へや意見があるのではないと思つています。

加藤 禮子(以下同) 私には銀座裏の小料理屋で働いていますが、板前さんがいいので、お料理も作れば、お客さまのお相手もします。それから住込みですからお掃除まで致します。

井上 ヤス(以下同) 井上さんは前回の全選の婦人部長で、昨年はイタリヤ總同盟の婦人部長として、東京にいらして、婦人の意見の場について日本の實情について、意見は豊富にお持ちだろうと思つています。

西田 壽美子(以下同) 三年前の資料ですが、日本の労働総数約三九百万に對し女子は千六百餘り、大體四二%、そのうち家庭従業者が大部分を占め、外に出て働いている女子雇用者は四分の一、およそ四百萬となつています。そのうち既婚者がどのくらいか調べていませんが、大體既婚者が多いだろうと思つて、そしてこれら働く中の中にはいろいろな境遇の方があり、職場はもとより労働条件も千差万別です。ところが、總じて今の日本では女ひとりの生活は大體ですし、またどんな職場でも女がいつでも同身で働いておられます、何か特殊な眼で見られる事でもなく、今日はその生活に對しての立場から發言して頂きたいと思つて、出席頂きましたお三人の職場はまるで違つていますが、それだけかえてさまざまの御考へや意見があるのではないと思つています。

加藤 禮子(以下同) 私には銀座裏の小料理屋で働いていますが、板前さんがいいので、お料理も作れば、お客さまのお相手もします。それから住込みですからお掃除まで致します。

井上 ヤス(以下同) 井上さんは前回の全選の婦人部長で、昨年はイタリヤ總同盟の婦人部長として、東京にいらして、婦人の意見の場について日本の實情について、意見は豊富にお持ちだろうと思つています。

西田 壽美子(以下同) 三年前の資料ですが、日本の労働総数約三九百万に對し女子は千六百餘り、大體四二%、そのうち家庭従業者が大部分を占め、外に出て働いている女子雇用者は四分の一、およそ四百萬となつています。そのうち既婚者がどのくらいか調べていませんが、大體既婚者が多いだろうと思つて、そしてこれら働く中の中にはいろいろな境遇の方があり、職場はもとより労働条件も千差万別です。ところが、總じて今の日本では女ひとりの生活は大體ですし、またどんな職場でも女がいつでも同身で働いておられます、何か特殊な眼で見られる事でもなく、今日はその生活に對しての立場から發言して頂きたいと思つて、出席頂きましたお三人の職場はまるで違つていますが、それだけかえてさまざまの御考へや意見があるのではないと思つています。

加藤 禮子(以下同) 私には銀座裏の小料理屋で働いていますが、板前さんがいいので、お料理も作れば、お客さまのお相手もします。それから住込みですからお掃除まで致します。

井上 ヤス(以下同) 井上さんは前回の全選の婦人部長で、昨年はイタリヤ總同盟の婦人部長として、東京にいらして、婦人の意見の場について日本の實情について、意見は豊富にお持ちだろうと思つています。

西田 壽美子(以下同) 三年前の資料ですが、日本の労働総数約三九百万に對し女子は千六百餘り、大體四二%、そのうち家庭従業者が大部分を占め、外に出て働いている女子雇用者は四分の一、およそ四百萬となつています。そのうち既婚者がどのくらいか調べていませんが、大體既婚者が多いだろうと思つて、そしてこれら働く中の中にはいろいろな境遇の方があり、職場はもとより労働条件も千差万別です。ところが、總じて今の日本では女ひとりの生活は大體ですし、またどんな職場でも女がいつでも同身で働いておられます、何か特殊な眼で見られる事でもなく、今日はその生活に對しての立場から發言して頂きたいと思つて、出席頂きましたお三人の職場はまるで違つていますが、それだけかえてさまざまの御考へや意見があるのではないと思つています。

加藤 禮子(以下同) 私には銀座裏の小料理屋で働いていますが、板前さんがいいので、お料理も作れば、お客さまのお相手もします。それから住込みですからお掃除まで致します。





久米 愛 (井澤 忠)

たいていの人は、借りにある家から去らせられたら、何か問題が身に...

短歌

短歌 萩元たけ子選 萩元たけ子 萩元たけ子は、...

すから、親は子どもを育てる責任を負わなければならない。物を買っても...

近頃は一昔前と違って、婦人も権利を自覚するようになりまし...

的理解という事だ。新しい事が出て、それに伴って新しい法律が生まれ、...

1957年2月号



★ルポルタージュ★

砂川町

一時ジャーナリズムのニエスのトップを切つた砂川町、去る十一月九日...



(開く砂川町の人びと)

共に奮闘は一年や二年でせぬものにならぬ。非情な接収の仕方、全ては無条件降伏...

< 16 >

1955年12月号

< 17 >

特集・私たちの生活と法律

た。しかし、親が浅いだけに、正しい権利意識を持っていない人も多い...

行動するわたちの会資料集成

「新編」日本女性文学全集 全12巻 The Anthology of Japanese Feminist Literature.

◆編 高木澄子・中嶋里美・三井マリ子... ◆解説 井上輝子・山口智美... ◆監修 岩淵宏子・長谷川啓...

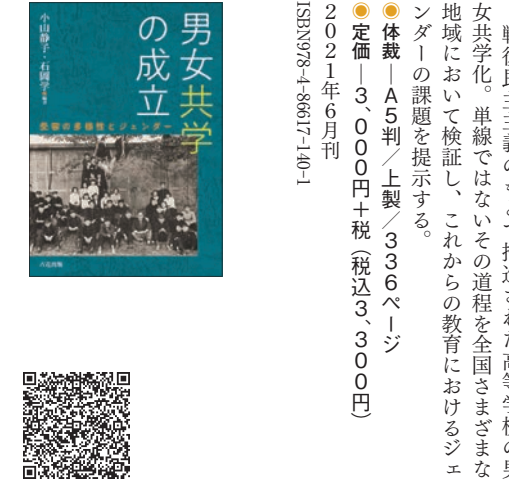
◆監修 岩淵宏子・長谷川啓... ◆「女が書く」とは何か... ◆近現代日本における女性文学の系譜をたどる決定版!

優生保護法関係資料集成 第二期 市民運動編 全8巻... ◆解説 荻野美穂... ◆推薦 芦野由利子・飯田祐子...

占領軍被害の研究 ◆著 藤目ゆき... 米国占領政策の成功例とされた、日本占領の内実は、...

優生保護法の本質に迫る！ 関係資料集成 第二期 市民運動編 全8巻... ◆監修 小森陽一・狩野啓子...

男女共学の成立 ◆編者 小山静子・石岡亨... 戦後民主主義のもとで推進された高等学校の男女共学化...



復刻版

婦人のこえ 全8巻

1953年10月～1961年9月

●体裁
A5判・上製・
総3、254ページ

●揃定価
160,000円＋税
(税込176,000円)

●解説
鈴木裕子

●推薦

水溜真由美（北海道大学）
林葉子（名古屋大学）

全8巻概要

第一回配本

2024年11月刊 本体80,000円＋税(税込88,000円)
ISBN978-4-86617-252-1

- 第1巻 1953年10月号～1954年12月号
(巻頭に解説＝鈴木裕子)
- 第2巻 1955年1月号～1955年12月号
- 第3巻 1956年1月号～1956年12月号
- 第4巻 1957年1月号～1957年12月号

第二回配本

2025年5月刊 本体80,000円＋税(税込88,000円)
ISBN978-4-86617-257-6

- 第5巻 1958年1月号～1958年12月号
- 第6巻 1959年1月号～1959年12月号
- 第7巻 1960年1月号～1960年12月号
- 第8巻 1961年1月号～1961年9月号

キーワード

- # 山川菊栄
- # 三瓶孝子
- # 藤原道子
- # 河崎なつ
- # 平和憲法
- # 貧困と格差
- # 男女同一賃金
- # ジェンダー
- # フェミニズム
- # 女性運動
- # 女性労働
- # 女性差別
- # 家父長制
- # 労働問題
- # 反戦・平和
- # 非武装・中立
- # 売買春問題
- # 売春防止法
- # MSA協定(日米相互防衛援助協定)
- # 反核・非核
- # 社会保障



六月号 目次

特集・日米不平等条約と日本

- 不平等条約改廃の方向
- 安保条約を廃棄せよ
- 講和条約と日本の経済
- 安保条約と日本の外交
- 行政協定と基地
- 安政の不平等条約
- ルポ・カアチャン町長
- 中小企業の戦場で
- 童角散本舗労働組
- 友田製業労働組

堀米正道(一)
山川菊栄(二)
中大路まき子(三)
榊原千代(四)
小畑マサユ(五)
菅谷直子(六)
山川菊栄(七)

四月号 目次

巻頭言・メーデーをむかえて

時評 独立国の誇りと

希望はいつの日にも

榊原千代(一)

働く婦人の歴史(十二)

随筆・神社と祭禮

新しい農業へ

主婦のこえ・断層の中で

職場のこえ・女中にも健康保険を

得猪野登子(二)

熱田優子(三)

七月号 目次

特集・働く婦人の現状報告

巻頭言・革新議員を参議院へ

オートメーションと婦人労働

製米労働者

電話交換手

バス車掌

時計工場

百貨店

看護婦

赤十字局

西陣をのぞく

花園の目ざめ

世界婦人労働者会議のこと

ふるさとの思い出(七)

解説・重要法案のゆくえ

兵庫職婦人懇談会のゆくえ

コント・路端会議

短歌

働く婦人の実情

萩元たけ子

三瓶孝子(一)

山本あゆみ(二)

白川あゆみ(三)

山本あゆみ(四)

三瓶孝子(五)

毛利美(六)

中谷信(七)

萩元たけ子(八)

*表示価格はすべて税別。

